

共同助成(長崎県遊技業協同組合)

「回復・相談支援事業の継続活動」事業

依存を克服した人の就業支援プログラムとして アップルパイ製造販売に向けた準備に取り組む

薬物・アルコール依存症者に加え、ギャンブル依存に苦しむ人への回復支援、家族・援助者などの相談支援を主たる活動としてきた長崎市の団体が、依存問題を抱える利用者や依存からの回復者の就業の場を確保することを目的に、アップルパイの製造販売に乗り出すことを決定した。そして2020年から、その準備に取り組む。



依存を克服した人の就業支援としてアップルパイ製造販売を準備



就労支援プログラムに重点に置き、 アップルパイの製造販売を行うことに

「ちゅーりっぷ会長崎ダルク」は、民間団体として1999年より20年にわたり依存症者の回復支援や依存問題を抱える方の相談支援を中心に活動を行ってきた。また、依存問題を様々な形で社会に周知するための普及・啓発活動にも取り組んでいる。2016年には、プライバシーを考慮し、相談者が安心して話ができる落ち着いた環境を整えた「眼鏡橋相談室」を長崎市内に開設、また2019年には県北の中心都市である佐世保市内に出張室も開設し、主に薬物を中心に回復支援と相談支援を行ってきた。さらに同団体ではギャンブル等の依存の問題に対する取り組みも始め、2016年9月にはギャンブル依存症回復施設「グラフ・ながさき」を開設した。

2020年度は、こうした活動の継続と、さらなる飛躍を目指していたのだが、折からのコロナ禍で回復施設の通常

プログラムが普段通り提供できなくなり、回復支援対策として5ヵ所あるナイトケアハウスにインターネット環境を整備し、リモートによるプログラムに切り替えるなどの対応を余儀なくされた。そのような状況下で、従来の形での回復相談支援事業の継続が困難になったため、同団体では就労支援プログラムに重点に置くこととし、アップルパイの製造販売を行うことにした。

依存問題を抱えた人は、社会になじむことが苦手な人が多く、依存問題をクリアしても次のステップとして地域に出ていくことがなかなかできないのが現状である。アップルパイの製造販売を通して、地域の人たちと徐々に触れ合いながら、人と関わることの喜びを感じてもらい、生きることの楽しさを感じてもらおうのが目的だが、それは依存問題を抱えた人の社会貢献にもつながると考えた。

依存問題の普及・啓発にもつながる 回復者の社会参加の機会を増やす

具体的な活動としては、材料調達や製品開発コストなどの検討なども含め、アップルパイの製品開発を外部に委託するとともに、アップルパイ製造のための資器材(サンプル用材料、オープンなど)を用意し、同団体の施設利用者と試作品の製造開発に取り組んだ。あくまでも就労支援が目的のため、当事者たちが働きやすい環境作りとやる気を保ち続けることができるよう、施設側と利用者が寄り添いながらともに作り上げることを大切にしたい。

「コロナ禍の状況の中で、施設の職員と利用者で何か社会に向けた活動ができないかと模索して、アップルパイ製造販売の事業に辿りつくことができました。アップルパイの製造は、施設側も利用者もまったく初体験であり、手探り状態で試行錯誤を繰り返すなか、うまくいかないことも多々ありましたが、おいしいアップルパイを作り上げようと、みんながとても生き生きとしており、やる気が上がっているのが

伺えました。そうした達成感が本人の自己肯定感にもつながります。まだまだしっかりした形にはなっていませんが、POSCの助成があったからこそ、こうして夢と希望のある活動ができていることに感謝しています」と、事業担当者は話す。

こうした形で依存問題をクリアした当事者が社会参加する機会が増え、その活動が一般の方々にも広く知られるようになっていけば、パチンコ・パチスロなどの依存問題の普及・啓発にもつながっていくと考えられる。同団体と関係がある方々からは、「ワクワクする事業で楽しみにしています」と、応援の声をいただいているという。

長崎県遊技業協同組合より

依存問題からの回復のために欠かせない、就労の場を作るというチャレンジに協力させていただきました。新たな事業の成功を祈っています。



依存問題を抱える利用者はアップルパイ作りに試行錯誤しながらも、モチベーションのアップや生きがいを感じるようになった



助成団体・特定非営利活動法人 ちゅーりっぷ会 長崎ダルク

<http://grafnagasaki.net/>



今後も依存症者の大切な回復の場として活動を続けていきます

依存の問題は、早期に介入し、支援することが望ましいのですが、現場の問題としてスタッフの育成や受け入れる場所など、今後クリアしていかなくてはならない課題はたくさんあります。日本は先進国でありながら、本人の自己責任論と依存症に対する情報の少なさから、いまだに多くの偏見を乗り越えられていません。

特定非営利活動法人 ちゅーりっぷ会 長崎ダルク
代表理事 中川 賀雅さん